

# 顔

東邦マークは私の誕生日と同じ1976年に設立しました。現在従業員数は10名、「スピード、スマイル、スマート」をモットーに、当社の営業をはじめHPデザインやデジタルコンテンツ制作を担当しています。

若い時分には外食産業に従事、当社入社後も1年間の現場オペレーターを経験を経てDTPと営業の勉強のため4年間出向するなど、多くの経験

を積んできました。苦勞もありましたが、この修行を経て身につけた営業のスタイル、DTPの基礎が今の私を形成する原点となっています。

現在、東京都正札シー

ル印刷協同組合青年部で副部長を担当しています。副部長を兼ねて、当部の役員はみな勉強熱心で、仕事も青年活動も頑張っています。1人1人の個性をお互いに熟知する間柄で、仲間で

あると同時に友達のような存在と感じています。正札青年部を代表して、今春から都内の若手印刷関連11団体に組織する印青連（印刷産業青年連絡協議会）の活動に参

加しています。『ダイヤモンドはダイヤモンドでしか磨くことができない』。人は人の中でしか成長するとはできないもの。真っ直ぐな意見、個性がぶつかり合うような人間関係

## 人は人の中で磨かれる



東邦マーク(株)  
竹岡 慎一さん

画。印刷青年部のカリスマが集う印青連は、そこに居るだけでも本当にパワーを感じます。ほかにJC I（日本青年会議所メディア印刷部会）にも所属しており、さまざまな業界のさまざまな青年経営者から、組織運営の手腕や経営者としての志を学んでいます。

の中で人は磨かれていく、と私は信じています。どの組織に対してもそこから何かを学び吸収し、それをフィードバックしたいという思いを持って活動へ主体的に参加しているつもりです。

営業の駆け出しだった当時と比較して、現在多岐に亘る業界のお客さま、さまざまな立場の方々とお仕事をさせて頂くようになりました。今実感するのは『自分の器の分しか仕事は入ってこない』、ということ。そんな自分の器を人との付き合いの中でさらに磨き上げ、もっと大きく成長させていくためにも、青年活動は私にとって欠かせないのでできないライフワークなのです。

3月の震災直後よりもさらに冷え込む印刷業界。第2の戦後、とも称される今、復興のために印刷は何かができるのか。仲間と連携する中で、どのようなことが実現可能か、印刷の可能性を共に考えていきたいですね。